



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大学院演習：家族と近隣（同居団体と自然近隣）
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1957
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77309
Type	manuscript
File Information	K012_0132.pdf



家族と近隣
(同居団体と自然近隣)

昭和三十一年

大塚啓演習

鈴木



第一回 大学院講義

独立した内容をもつ社会意識による

相互拘束の一面が自然村であるといふ。

ところに初めの自然村の社会的規定の中軸

は存して居る。社会意識の独立した他律的な

内容が社会的に遠い過去の世代にも遠い未

来の世代にも及んで居るところから、社会意識(内

容)の時間的同一性を明かにする為に私は

村の精神と云ふ語を用ゐるに過ぎない。

但し社会意識にも相互拘束の一面は

自然村の外にどんな社会があるか。それが持続

的而接的集團である事は必要です。

は勿論です。所謂 Primary Group だ。

そんな持続的而協的集團であるを規定し
しより考へて片々足方ほひしい。然し凡そ持続的
而協的集團には如何なる集團を考へる
れどかについで考察には積極的にならねばなら
なれど。

かくの如き集團の母型である。

私の考へる協同主義（は同居團體と自然
近隣とかを以てする。今日の都市生活は
いふは東洋の職工場である。自然近隣のつた
がの如き集團は如何なるか。自然近隣のつた
がこれには我々しき理想を以てする。何れの代
りか。斯ういふ。又それの教定をなす
がである。と云ふことが出来る。

持続的而協的集團を以ては此等のしへの外

自然家族
(同居家族)

戶籍家族
(血緣家族)

自然近隣
行政近隣

自然地區
行政地區

自然村落
行政村落

自然都市
行政都市

之る存す。倫理は人道
の義あり。